

## 2024 年フクシマ連帯キャラバン報告書

私は今回初めて福島連帯キャラバンに参加させていただき、貴重な経験をしました。

13 年前、東日本大震災が起きた当時、私は高校一年生でした。実際に八戸も津波の影響を大きく受け、被災された街を見て衝撃を受けたことを覚えています。私が住んでいる八戸や隣県の岩手などだいぶ復興し、元の生活ができるようになり、あの時の最悪の災害が記憶から少し薄れ、風化されていくような気がしていました。

福島も同じようにどんどん復興が進み、元の生活が取り戻すようなかんじなのだろうとテレビなどのメディアを通して感じていました。が、今回福島連帯キャラバンに参加し、実際に被災された町を目の当たりにし驚きを隠せませんでした。震災による復興は着々と進んではいたが、原発による被災はまったく進んでおらず、去年の 10 月に禁止区域解除になったばかりでした。13 年も経ち、取り残された家屋や車、公共の施設は元の姿に戻せないような状態でした。放射能の被害で故郷を奪われ、離れ離れになった家族や仲間、元の生活には戻ることはできず、原発により全てを奪われてしまったことは、もう生きる活力そのものを無くしてしまうほどの破壊力でした。

私にできることは、今回得た知識や経験を家族や会社の人、友人などに伝え、風化させないようにしに、もう二度と最悪で最恐の災害が起きぬように、声をあげ、反原発、脱原発運動に力を入れていきたいです。

全港湾八戸支部上村 慎二